

WLAC REPORT 2023

World Liberal Arts Center Report



名古屋外国語大学
ワールドリベラルアーツセンター長
亀山 郁夫 (学長)

巻頭言

ここに名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンターの活動報告書「WLAC REPORT 2023」をお届けします。

2015年に発足した本センターは、日本を含む世界のさまざまな地域の言語、文化、芸術、教育、社会、政治等に関わる問題系を掘り起こし、21世紀の現代に真にふさわしい教養教育の理念構築に寄与することを目的としております。例年、本レポートでは、多くのイベントやシンポジウムを紹介してきましたが、今年は、3年間近くに及んだコロナ禍の影響を脱し、質数ともに前年度を上回る成果を得ることができました。特筆すべき企画として挙げられるのが、第18回国際ドストエフスキー学会(IDS)名古屋大会開催への全面的支援です(8月)。ゲストの講演者として、中村文則、綿矢りさ、平野啓一郎の三氏をお招きし、学会の掉尾を飾るラウンドテーブル「ドストエフスキーと現代日本の作家」(8月)が開催されました。また、わが国を代表する作家松浦寿輝氏の講演「迷うことについて——〈デッドレコニング〉のすすめ」、本学出身のドキュメンタリー作家鈴木忠平氏の講演「その一球を見る! スポーツライターの目」は、本学の学生、一般の参加者の心に残るイベントとなりました。

他方、地域連携の重要な柱の一つであるイベント「WlacTALK 地球に触れる Part 2」(3月)は、今年で2年目を迎え、新たに設立された地域教育連携センターとのジョイントにより無事開催の運びとなりました。愛知県、静岡県から40名近い高校生が参加し、「世界教養」の新たな姿を提示することができました。また、本センターの研究紀要である雑誌「Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)」第9号も無事刊行され、次年度に向けてよりいっそう知的発信を強化したいと念じているところです。WLAC事業の重要な柱の一つとして開設されたNUFSオープンカレッジは、順調に受講生の数を伸ばし、その勢いを借りて、今年度も冬期特別講座(集中)を開くこととなりました。

最後に、各イベントの開催にご尽力くださいました方々、また、ご参加くださった皆様に心より御礼申し上げます。これからも地域を超えて皆さまの温かいご協力ご支援を賜れましたら幸いです。

2023 年度 活動一覽

セミナー 2023年5月14日(日)

大学教育における地域連携の実践と関係人口

報告者：田中 輝美(鳥根県立大学)、地田 徹朗(名古屋外国語大学)、池 炫周 直美(北海道大学)
石田 聖(長崎県立大学)、花松 泰倫(九州国際大学)
コメンテーター：古川 浩司(中京大学)

NPO 法人国境地域研究センター、名古屋外国語大学グローバル共生社会研究所(RINGS)、
名古屋外国語大学世界共生学部世界共生学科、
人間文化研究機構東ユーラシア研究プロジェクト北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター拠点、
北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター境界研究ユニット 共催
WLAC 後援



講演会 2023年5月17日(水)

その一球を見ろ！スポーツライターの目

鈴木 忠平(スポーツライター)

WLAC 主催

講演会 2023年5月23日(火)

『愛、もしくは別れの夜に』刊行記念講演

亀山 郁夫(名古屋外国語大学学長)
エリス 俊子(名古屋外国語大学教授)

名古屋外国語大学出版会・WLAC 共催

講演会 2023年5月26日(金)

『ふたりパパ』同性婚 X 国際結婚 X 海外育児 — 北欧スウェーデンと選択ができる社会

みつつん(動画クリエイター、ブロガー、翻訳家)

名古屋外国語大学現代国際学部・WLAC 共催

ワークショップ **講演会** ①2023年6月5日(月) ②6月6日(火)

専門家と考える世界の環境問題

- ①クライメート・フレスク・ワークショップ
- ②グリーンウォッシュの危険性と環境リテラシーの重要性

ステファン・ルデュ(Codo Advisory 代表取締役・COO)
篠原 美奈巳(Codo Advisory サステナビリティ・コンサルタント)

ワークショップ：名古屋外国語大学フランス語学科 主催、在日フランス商工会議所 後援
講演会：名古屋外国語大学フランス語学科・WLAC 共催、在日フランス商工会議所 後援



講演会 2023年7月31日(月)

ドストエフスキー五大長編翻訳完結記念 亀山郁夫講演会

ードストエフスキーとの17年—
亀山 郁夫(名古屋外国語大学学長・WLAC センター長)

WLAC・名古屋外国語大学 大学事務局 共催

講演会 2023年8月27日(日)

第18回 国際ドストエフスキー学会 —『悪霊』の150年— 特別記念講演会

講演者：平野 啓一郎(小説家)、綿矢 りさ(小説家)、中村 文則(小説家)
司会：亀山 郁夫(名古屋外国語大学学長)

国際ドストエフスキー協会(IDS) 主催、WLAC 後援



講演会 **座談会** **フリートーク** 2023年10月20日(金)

作家・詩人・批評家 松浦寿輝 講演会 迷うことについて —〈デッドレコニング〉のすすめ —奇妙な静けさとざわめきとひしめき— 萩原朔太郎と中井久夫

松浦 寿輝(作家・詩人・批評家)
松浦 寿輝(作家・詩人・批評家) X 石井 洋二郎(中部大学 創造的リベラルアーツセンター)
亀山 郁夫(名古屋外国語大学学長)、エリス 俊子(名古屋外国語大学教授)

講演会：名古屋外国語大学現代国際学部、WLAC 共催
座談会・フリートーク：WLAC 主催 中部大学創造的リベラルアーツセンター 後援



月間イベント 【2023年11月1日(水)～30日(木)】 ①11月15日(水) ②11月22日(水) ③11月23日(木)
④11月10日(金)、15日(水)、21日(火) ⑤11月1日(水)～30日(木)

ブラジル・ポルトガル月間イベント

- ①ピアノで迎える、ヴィラ＝ロボスの果てしなき世界 ② Boi-Bumbá パフォーマンス
③映画『彼の見つめる先に』上映会 ④7号館食堂での料理提供 ⑤図書館特設ブースの設置

- ①指揮：木許 裕介（ヴィラ＝ロボス協会会長）
ピアノ：清水 安紀（同副会長）
②本学教員とダンスグループの皆さん
③解説：鈴木 茂（名古屋外国語大学教授）

名古屋外国語大学言語教育開発センター（CLED）、WLAC 共催

読書週間イベント 2023年11月3日（金）

一冊の本との出会いーあるユダヤ人家族の記憶を辿る

翻訳者解説：墨（村上）かおり（名古屋外国語大学准教授）
読書報告：名古屋外国語大学・世界共生学科 西村木綿ゼミ3年生、オンライン対談 中谷 剛（ポーランド在住）

名古屋外国語大学世界共生学部、WLAC、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 中央図書館 共催

週間イベント 【2023年11月16日(木)～24日(金)】 ①11月16日(木) ②11月22日(水) ③11月24日(金)

フランスウィーク 2023

- ①弁論大会 ②講演会・ワークショップ ボードゲームについて
③講演会・ワークショップ フランスの切り絵について

- ②アントワヌ・ボウザ（ボードゲーム作家）、上杉 真人（ボードゲームデザイナー）
③エレヌ・ドゥルヴェール（テキスタイル・デザイナー、イラストレーター、切り絵作家）

名古屋外国語大学フランス語学科、WLAC 共催

セミナー 2023年11月28日（火）

世界教養学科教養セミナー エンニオ・モリコーネ コンサート～あの音を求めて～

ピアノ：甚目 裕夫、ソプラノ：二宮 咲子、ヴァイオリン：小島 愛弓、トーク：石田 聖子（名古屋外国語大学世界教養学科 准教授）

名古屋外国語大学世界教養学科 主催、WLAC 協力

講演会 2023年12月1日（金）

ファッションはジェンダーを乗り越えられるかーファッションにおけるジェンダー表現の諸相

講師：井伊 あかり（文化学園大学 准教授）、進行：加藤 有子（名古屋外国語大学世界教養学科 教授）

名古屋外国語大学世界教養学科 主催、WLAC 後援

講演会 2023年12月13日（水）

音楽と言語の平行性 ～音のネーミングとハンドサイン～

北山 敦康（静岡大学名誉教授）

名古屋外国語大学英米語学科、WLAC 共催

講演会 2023年12月20日（水）

『アイヌ通史』からアイヌ近現代思想史へ

マーク・ウィンチェスター（国立アイヌ民族博物館アソシエイトフェロー）

名古屋外国語大学世界共生学科、WLAC 共催

シンポジウム 2024年1月20日（土）

2024 Teacher Development Symposium

畑佐 由紀子（広島大学名誉教授）、石原 紀子（法政大学教授）

言語教育開発センター（CLED）主催
WLAC 後援

フォーラム 2024年3月9日（土）

WlacTALK <地球に触（ふ）れる PART II>

WlacTALK 担当の先生方

WLAC 主催



「迷うことについて」 松浦寿輝氏による講演会/座談会の開催と 中部地区リベラルアーツ教育の展望

10月20日（金曜日）、WLACと現代国際学部共催で、芥川賞作家の松浦寿輝氏による講演会「迷うことについて―〈デッドレコニング〉のすすめ」が開催された。松浦氏は、同賞受賞作『花腐し』の他、数数の小説及び評論作品で知られ、詩人であり、かつ研究者として多岐にわたって活躍しているが、本講演では、若い学生たちにメッセージを送りたいと、学部生に向けて、迷うことの大切さについて熱く語りかけた。グローバル化が進み、情報網が行きわたり、地球の隅々がマッピングされている現代、人間の生き方もマッピングされており、道から外れることが限りなく難しくなっている。そのような時代にあって、私たちの想像力も鈍化していること、そして、知らぬ間に敷かれたレールに乗って進むことを良しとする感性がはたらいっていることについて、自ら問い直してみよ、という啓発的な内容だった。キーワードは、terra incognita（未知の土地）。「宝島」の冒険の時代とはちがひ、もはや地球上に terra incognita はなくなったが、未知の領域への挑戦はさまざまなかたちで可能であること、だから迷うことを恐れずに、自分の生き方を探ってほしいと訴える講演に、学生たちは一心に耳を傾けていた。

講演につづいて、松浦氏を囲んで、亀山郁夫学長、中部大学の石井洋二郎教授、世界教養学科のエリス俊子、それに進行役の本学フランス語学科木内堯准教授も加わって、「奇妙な静けさとざわめきとひしめき」と題して座談会を開催した。こちらは場所を移して小規模で行ったが、精神科医中井久夫による統合失調症をめぐる論考をもとに、20世紀初頭の詩人

萩原朔太郎の「猫町」を読み直し、人間のストレスの限界状況とその表現をめぐって、参加者それぞれの専門の立場から、フリートーク形式で活発に意見を交わした。両イベント共に一般にも公開されており、フロアからも質問やコメントが相次いだ。

上記イベントの数週間後の11月8日（水曜日）には、座談会出席者でもあった石井洋二郎教授がセンター長を務める中部大学創造的リベラルアーツセンター主催で、「中部地区におけるリベラルアーツ教育の現状と課題」と題したオンラインFD研修会が開催され、名古屋外国語大学からはエリス俊子がワールドリベラルアーツセンターの組織や活動、その理念及び今後の課題について、報告を行った。同研修会には、進行役の石井教授のほか、中部大学から鈴木順子教授、豊田工業大学から次世代文明センター長の江口建教授がそれぞれの大学におけるリベラルアーツ教育の現状について報告した。さまざまな取り組みについて情報交換を行うと同時に、グローバル化、平準化が進行する一方で世界の分断化が深刻な危機をもたらしている現代にあつてこそ、主体的に問いを立て、自ら考え、行動する力を養うリベラルアーツ教育の充実が喫緊の課題であることが確認され、その実践のために、今後も中部地区の大学間で連携し、協力していくことが合意された。本研修会は一般公開で、名古屋外国語大学からも複数の参加者があった。

（センター運営補佐 エリス 俊子）



高校生に開く大学の学び

〈地球に触（ふ）れる PART II〉を開催

2024年3月9日の土曜日、名古屋外国語大学名駅キャンパスの多目的ラボにおいて、WlacTALKのイベントが開催された。第3回目となる今回は、「地球に触（ふ）れる Part II」と題して、ランチタイムを挟んだ午前と午後のワークショップ、および締めくくりとなるレクチャーの3部形式で実施した。近隣の高校から、3名の教員を含む合計38名にご参加いただき、本学の留学生14名、学部生10名をまじえて活発な交流と学びの場を体験していただいた。愛知県教育委員会の方々もお運びくださり、スタッフ一同とともに、高校生の方々の活躍を大変嬉しく見守った。

10時に受付を開始し、10時半に開会のことが述べられたあと、午前のワークショップが始まった。“Touching the Earth: SDGs in our Hands”と題して、マージョリー・ドン・リズエロ先生のリードのもと、SDGsをテーマとするプレゼンテーションや質疑応答が活発に行われた。留学生14名がそれぞれの出身地をベースに6つのアイランドを形成し、高校生のグループがそのアイランドを巡回しながら、学部生のサポートを受けつつ、SDGsの各項目に関連する社会問題について共に考え話し合う。7つめのアイランドでは、多目的ラボに設置されているデジタル地球儀「触（さわ）れる地球」を囲んで、高校生と学部生が実際に地球儀を動かしながら、環境問題の地図などを閲覧した。

昼食は、城月先生のコーディネートのもと、多目的ラボの向いにある図書室「WLALi」にて、SDGs宣言をされている企業の社長の方からお話を伺いながら、今回の

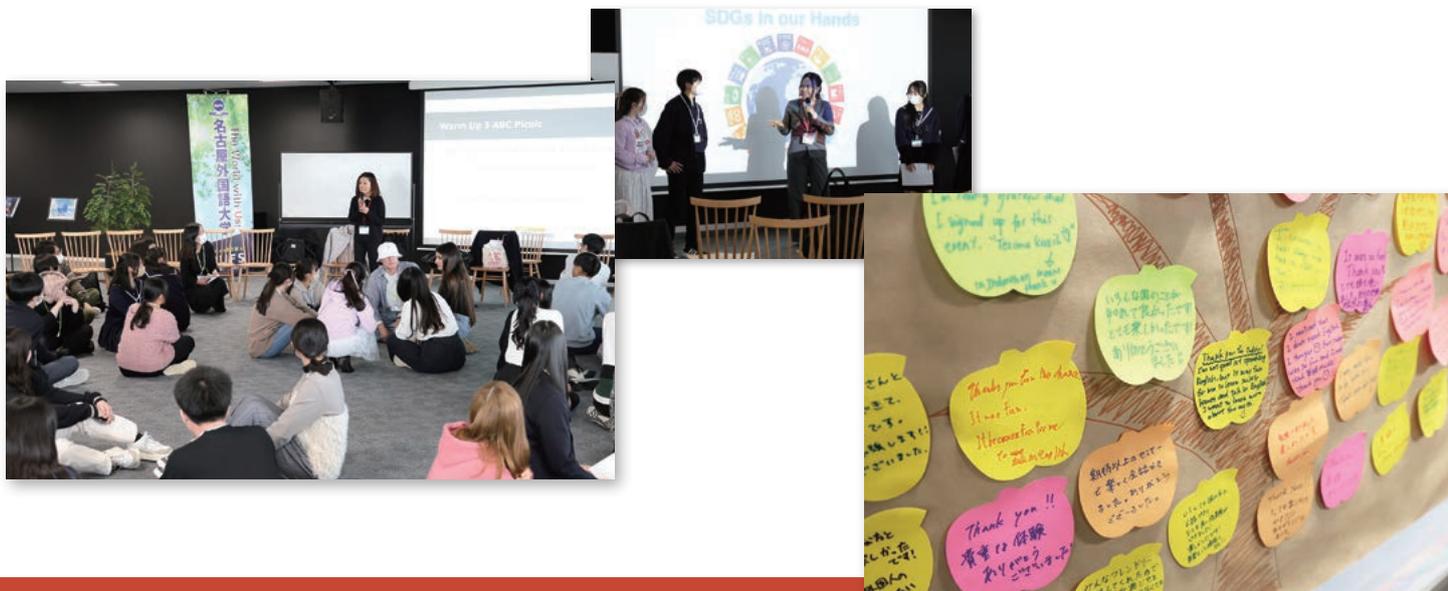
イベントのために特別に配達していただいた「体にやさしい」お弁当に舌鼓を打った。デザートに守口漬を使ったケーキが出ると、一同から歓声があがった。

午後のワークショップでは、ムーディ美穂先生のリードのもと、“Enhancing English Communication Skills through Drama”と題し、身体を縦横に使ったワークショップが行われた。全員が立ち上がって輪を作り、ハイタッチをともなう会話の応酬をはじめとするウォーミングアップのあと、クライマックスの英語劇へと進み、高校生はペアを組んで、身近なテーマに基づくロールプレイに挑戦した。リハーサル後の本番には留学生が各ペアに加わり、劇の観客としてコメントを発表した。

最後の締めくくりとして、WLACセンター長の亀山先生による講演が行われた。ドストエフスキーとの出会いや夢にまつわるエピソードでは高校生に問いが投げかけられ、最後にその回答が明かされるという一幕があった。躍動的な2つのワークショップのあと、世界の「いま」を深く考え、深刻な世界情勢から、個人のありかたという哲学的なテーマにいたるまで、幅広い内容に思いを馳せる貴重な機会となった。

15時半の閉会のあとも、参加者や留学生、学部生たちが、別れを惜しむ姿が見られ、充実した出会いの場の余韻を楽しんでいた。このような姿が今後も見られるよう、高校と大学を結ぶ魅力的なプログラムの展開に尽力したい。

(センター運営補佐 梅垣 昌子)



2023年度 Open College 報告

2022年度4月に「12の教養と12の言語」をキーワードにスタートしたオープンカレッジは、その後も順調に成長を続け、2023年度は前年度より講座数も増えました。春期講座で教養12講座、言語25講座が、秋期講座で教養11講座、言語23講座が提供され、5日間集中講座の冬期特別講座で教養4講座、言語11講座が提供されました。これらの講座はより多くの皆さまが受講しやすいよう、5講時より6講時に多く、そして土曜日の2講時にも開講しています。

教養講座では、映画や文学、哲学、美術、観光や教育などの多様なテーマに関する講座を引き続き開講しています。また、言語講座については2023年度より英語講座が加わり、13言語になりました。英語が既習言語である受講者が多いため、ご自身のレベルに合った英語講座を選んでいただけるよう、各講座の難易度をシラバスに記載しました。さらに2023年度で学んだ言語を継続して学んでいただけるよう、2024年度は一部の言語に中級もしくは初中級も開講する予定です。

オープンカレッジは、2021年10月に開設した名駅キャンパスで実施しています。「創造的学びを実現する先鋭空間」としてデザインされたキャンパスは、オープンカレ

ジの受講の皆さまから、清潔感があり使いやすいというコメントもいただいています。このキャンパスで学ぶ受講者は、開始当初の登録者数150名から、2023年度秋期公開講座では登録者数201名、受講者延べ人数272名となりました。お一人で複数の講座を受講してくださる方も増え、さらには高校生の方も受講して下さっています。どの受講生も強い関心を持って受講して下さっていますので、オープンカレッジの教室には通常の大学の授業とは違った熱気と緊張感があります。熱心に講師の声に耳を傾け授業に臨まれる社会人の姿に、また授業後に通ってくれる高校生の熱意に、本学学生たちも良い刺激を受けているようです。まさに、「学び」に年齢は関係ない、人はいつまでも知を求め続けるのだということを実感します。

名古屋外国語大学は、東海地方で唯一の外国語大学です。この地域の皆さまに、他大学や語学学校にはない、外国語大学らしい講座をこれからも提供し、オープンカレッジが地域の皆さまのさまざまな知的関心に応えることのできる「学び」の場となること目指していきます。

(センター運営補佐 ハンプリー 恵子)



名古屋外国語大学オープンカレッジ 2023年度 公開講座 一覧

春期 開講期間 2023年4月12日(水)～7月28日(金)

| 教養講座 | | 言語講座 | |
|----------------------------------|-------------|--|---------------|
| 科目名 | 担当者 | 科目名 | 担当者 |
| 日本人が知っておくべき仏教の思想-それが日本の哲学だ! | 湯谷 祐三 | 中国語入門 A-1 | 蟹江 静夫 |
| イタリア・ルネサンス 西洋美術の青春時代 | 桑原 恒和 | ロシア語入門 1 | イーホル・ダツェンコ |
| 外から日本語の文法を見ると?—日本語教育文法— | 坂本 正 | ブラジル・ポルトガル語 (初級) | ジマス・ハダマ・バトリシア |
| Introduction to British Culture | ニコラス・ブラドリー | 始めたばかりのイタリア語 (初級) ゆっくりと初歩のイタリア語 | アナスタージャ・ブドック |
| フランス哲学:知識の哲学 (エピステモロジー) 入門 | 上西 晃生 | ドイツ語入門 1 | 三宅 恭子 |
| ネム船長の哲学塾—「みんなちがってみんないい」で本当にいいのか? | 根無 一信 | フランス語入門 1 | バク・ジェローム |
| 公益通訳翻訳 | ヤコブ・マルシャレンコ | 洋楽で楽しく学ぶ総合英語 | 橋尾 晋平 |
| ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』の謎 | 亀山 郁夫 | English Communication | ベッキー・アルプ |
| フランス音楽のタベ～レクチャー & コンサート～ | 大岩 昌子 | 韓国語入門 1 | 李 惠敏 |
| 生命科学と倫理 | 北川 章 | Writing for Academic Purposes in English | トレバー・アストリー |
| 日中映画史—日本で観られる中国映画のスター (男優編) | 楊 紅雲 | Global Topics in English | エリック・ヒラタ |
| ブラジルから見える世界の歴史 | 鈴木 茂 | トルコ語入門 1 [在名古屋トルコ共和国総領事館寄付講座] | ガムゼ・ケッレ |
| | | 舞台版「ハリー・ポッターと呪いの子」第1部を英語で読もう | 今井 康貴 |
| | | スワヒリ語入門 1 | 高村 美也子 |
| | | 中国語入門 B-1 | 周 素芬 |
| | | Improving English Skills and Discussing the News | エティエン・マルソ |
| | | インドネシア語入門 1 (初心者) | ウインダルティ・ユリア |
| | | English Conversation Skills | バトリク・ラングリー |
| | | 少し学ばれた方のイタリア語 (初中級) もう一度基礎からのイタリア語 | アナスタージャ・ブドック |
| | | スペイン語入門 1 | 中川 智彦 |
| | | Intercultural Communication in English | ケビン・オットソン |
| | | Reading Literature in English | カミーロ・ピラヌエバ |
| | | ブラジル・ポルトガル語 (初中級) | ジマス・ハダマ・バトリシア |
| | | タイ語入門 1 | 寺田 ダラボン |
| | | 様々な社会問題に関して英語でディスカッションしてみよう | 柴田 直哉 |

秋期 開講期間 2023年10月2日(月)～12月25日(月)

| 教養講座 | | 言語講座 | |
|--------------------------------------|--------------|---|---------------|
| 科目名 | 担当者 | 科目名 | 担当者 |
| 仏教がわかると日本文化はこんなに面白い—歴史・文化・文学 (中古・中世) | 湯谷 祐三 | 中国語入門 A-2 | 蟹江 静夫 |
| 芸術の国・イタリアの予備知識 | 桑原 恒和 | ロシア語入門 2 | イーホル・ダツェンコ |
| 外国語の習得を考える — 外国語教師の基礎知識として — | 坂本 正 | 洋楽を通して楽しく学ぶ英語コミュニケーション | 橋尾 晋平 |
| 概念と知覚の哲学:エピステモロジー入門 II | 上西 晃生 | 始めたばかりのイタリア語 (初級) ゆっくりと初歩のイタリア語 | アナスタージャ・ブドック |
| 目からウロコの宗教学入門—トトロは妖怪か、この世界になぜ悪があるのか等 | 根無 一信 | ドイツ語入門 2 | 三宅 恭子 |
| 20世紀ロシア文化の世界 | 亀山 郁夫 | フランス語入門 2 | ジェローム・バク |
| 歴史家のための弁明 | 小堀 慎悟 | Advanced Intercultural Communication in English 2 | ベッキー・アルプ |
| 観光と航空産業 | 竹ノ内 典子 | 韓国語入門 2 | 李 惠敏 |
| 19世紀ロシア小説を読む楽しみ | 山路 明日太、齋須 直人 | Writing for Academic Purposes in English | トレバー・アストリー |
| 感情論から見る映画・黒人の人魚姫はなぜスキャンダルになったのか? | 亀田 真澄 | 様々な社会問題に関して英語で話し合ってみよう | 柴田 直哉 |
| 絵本への扉—原作で楽しむ英語絵本の世界 | 新居 明子 | トルコ語入門 2 [在名古屋トルコ共和国総領事館寄付講座] | ガムゼ・ケッレ |
| | | 中国語初級 1 — コミュニケーション中国語 — | 周 素芬 |
| | | 英文法・語法問題を解いてみよう (TOEFL から大学入試問題まで) | 今井 康貴 |
| | | スワヒリ語入門 2 | 高村 美也子 |
| | | 中国語入門 B-1 | 周 素芬 |
| | | インドネシア語入門 1 — インドネシア語の基礎文法と会話 — | ユリア・ウインダルティ |
| | | English Conversation Practice | バトリク・ラングリー |
| | | 少し学ばれた方のイタリア語 (初中級) もう一度基礎からのイタリア語 | アナスタージャ・ブドック |
| | | スペイン語入門 2 | 中川 智彦 |
| | | Intercultural Communication in English | ケビン・オットソン |
| | | English Conversation | カミーロ・ピラヌエバ |
| | | ブラジル・ポルトガル語 (初中級2) | ジマス・ハダマ・バトリシア |
| | | タイ語入門 2 | 寺田 ダラボン |

冬期特別講座(集中) 開講期間 2024年2月19日(月)～2月22日(木)

| 教養講座 | | 言語講座 | |
|--------------------------|-------|----------------------------|---------------|
| 科目名 | 担当者 | 科目名 | 担当者 |
| 4日で学ぶ親鸞—『歎異抄』を読む | 湯谷 祐三 | 中国語基礎完成講座 | 蟹江 静夫 |
| イタリアへ旅立つ前の文化と美術の予備知識 | 桑原 恒和 | 集中講義のロシア語入門 | イーホル・ダツェンコ |
| ネム船長の哲学塾 妖怪をテツガクする | 根無 一信 | イタリア語の基礎文法とフレーズごとに学ぶ日常会話 | アナスタージャ・ブドック |
| 4日で学ぶ国際言語としての英語の社会における影響 | 柴田 直哉 | 旅するドイツ語 | 三宅 恭子 |
| | | 4日で学ぶ韓国語の会話 (旅行編) | 李 惠敏 |
| | | 旅の会話 (中国語) ※6限のみの開講となります。 | 周 素芬 |
| | | 4日間で学ぶスワヒリ語の基礎 | 高村 美也子 |
| | | ロシア語で文学作品を読もう | 山路 明日太 |
| | | Daily Conversation English | バトリク・ラングリー |
| | | 4日で学ぶ基本的なポルトガル語の特訓講座 | ジマス・ハダマ・バトリシア |
| | | 4日で学ぶ0からタイ語会話 | 寺田 ダラボン |

※ 2024年度も同様に実施予定です。詳細は本学 HP よりご確認ください。

発行冊子

Artes MUNDI (アルテス・ムンディ)

(※ Artes MUNDI (アルテス・ムンディ) とは、ラテン語で「世界の技芸 (ぎげい)」のことをいいます。)



本年度も無事に Artes MUNDI Vol. 9 を刊行することができました。

2023 年は何よりも 8 月末に国際ドストエフスキー学会の世界大会が名駅キャンパスで開催された年として記憶されるでしょう。ロシアによるウクライナ侵攻という前代未聞の状況下で開催された本大会の熱気は本号の通奏低音として鳴り響いています。また亀山郁夫先生は編集長という立場を超え、

執筆者として「フランクフルト国際空港にて」と題する随筆を書き下ろしてくださいました。

本号には、Artes MUNDI の初代編集長であり、ラテンアメリカ文学研究の第一人者野谷文昭先生の第 59 回日本翻訳文化賞受賞を祝してのロングインタビューも掲載されています。インタビューの末には名古屋外国語大学に赴任してからの 10 年間の業績が掲載され、その熱量には圧倒されます。インタビューでは 50 年にわたる翻訳人生を振り返りつつ翻訳の秘技についても明かしてくれています。

ラテンアメリカ文学とのつながりから、第三世界の文学を国家的アレゴリーの文学として論じたフレドリック・ジェイムソン教授 (デューク大学) の古典的論文を本邦初訳しています。仏訳との照らし合わせで英語原文の難解さが少しでも和らいでいることが期待されます。この論文ではラテンアメリカやアフリカの作家だけでなく、魯迅の作品が第三世界文学として取り上げられますが、全くの偶然ながら、本号には魯迅にまつわる興味深い論稿が藤井省三先生と上田功先生によって書かれています。

本号のコラムのテーマは「忘れられない旋律」。音楽にまつわる印象的なエピソードが多彩な書き手から寄せられました。

著者インタビューは『フォークナー語りの力：その創造性の起源へ』の梅垣昌子先生、『あの音を求めて：モリコーネ、音楽・人生を語る』の石田聖子先生です。

平野啓一郎さんとミュリエル・バルベリさんの「京都を愛する様々な方法について」は 2022 年 11 月に WLALi で行われた公開対話です。京都について、小説について、芸術について、哲学について非常に深い内容の対話が交わされています。

来年には Artes MUNDI は創刊 10 周年を迎えます。次号にご期待ください。

(センター運営補佐 伊藤 達也)

【目次】

論文
エッセイ
特集
コラム 「忘れられない旋律」
特別対談
随筆・紀行
インタビュー
書評

編 集 後 記

ウクライナ侵攻、ガザ紛争、そして能登半島地震と、悲しい事件が続くなか、唯一明るい希望と言えば、コロナ禍の収束が見えてきたことです。今年度のワールドリベラルアーツセンターも昨年に引き続き、イベント盛りだくさんの一年となりました。とくに印象的なのが、名駅キャンパスで開かれた第 18 回国際ドストエフスキー学会の全面的な後押しです。また、日本を代表する作家、松浦寿輝を囲んでの講演会+ワークショップはいずれも高度な知的関心に支えられた素晴らしい 3 時間で、地域の皆さまの知的好奇心を深く刺激することができたと思います。私がとくに強い感銘を受けたのが、「ブラジル・ポルトガル語」月間イベントの一つとしてコミプラで開催されたヴィラ・ロボス関連の企画。黄昏の迫る外の景色を眺めながら、一瞬、世界が生まれ変わったような貴重な感覚を楽しむことができました。愛知近隣の高校生を招いて大学での学びを体験する WlacTALK の企画も順調に軌道に乗っています。今年もまた、意欲にあふれる 40 名近い若い顔々と出会うことができました。最後になりますが、これまでの Wlac 活動へのご支援に感謝し、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

(センター長 亀山 郁夫)

運営者名簿

名古屋外国語大学ワールドリベラルアーツセンター

センター長 亀山 郁夫 (学長)
運営補佐 梅垣 昌子 (英米語学科教授)
エリス 俊子 (世界教養学科教授)
伊藤 達也 (フランス語学科教授)
ハンフリー恵子 (英米語学科教授)

顧問

副学長 高 梨 芳 郎
〃 佐 藤 都喜子
〃 梅垣 昌子
〃 恒 川 孝 司 (常務理事・法人事務局長・名古屋学芸大学副学長)

事務局

後 藤 隆 文 (事務局長)
福 壽 佳 音
戸 田 都

名古屋外国語大学 ワールドリベラルアーツセンター

〒470-0197 愛知県日進市岩崎町竹ノ山57
電話：0561-74-1111 (代表) 0561-75-2164 (直通)
Mail: wlac_gg@nufs.ac.jp